

# 当別文芸の会だより

NO.30

H24・9/20 発行 (連絡先・河地良一 TEL23-2103)

## 「当別文芸セミナー」充実した内容でした

猛暑続きの今年の夏、9月に入っても暑さが一向におさまりません。そんな暑さの中でしたが、当別文芸の会主催の第3回「当別文芸セミナー」が、9月15日(土)13:30より当別赤レンガ6号(ふれあい倉庫・カルチャーホール)で開催されました。

昨年に引き続き、今年も当別町教育委員会の「町民自主企画講座」の指定を受け、たくさんの支援をいただく中で開催することが出来ましたこととお礼申し上げます。

ただ、昨年までは10月後半の開催でしたが、気候のいい時期にということで、9月中旬の3連休の初日に開催日を持ってきましたが、結構、行事と重なった方が多く、参加者は22名(メンバー15名、一般8名)で、講師には少し申し訳ないといった気持でした。

しかし、講演内容は「北海道の開拓と薩摩藩士・村橋久成の生涯一箱館戦争・開拓使任官・開拓使麦酒醸造所創業」と題して、ほっかいどう学を学ぶ会幹事長・井上和男氏のパワーポイントを使っての分かりやすく、そして内容の濃いお話でしたので、参加されたみなさんには北海道の開拓の頃の様子を感慨深く聞いていただくことができました。

この麦酒醸造所が現在の「サッポロビール」の前身になるわけですが、村橋久成の生涯は波瀾に富んだドラマ(開拓秘話)といってもいいでしょう。

彼の生涯は「サッポロビール園」(北7東9)内の「ビール博物館」でも紹介されていますので、みなさんも、ビール園内の「ガーデングリル」で本場のビールを味わいながら、開拓当初の苦労を偲んでみてはいかがでしょうか。

## 10月の読書会は寒川光太郎の「密猟者」です。

今回の読書会は10月13日(土)13:40～、会場は白樺コミセンです。次回からJR(下り)石狩当別着13:25に合わせて、開会を10分遅らせませす。指定図書は、北海道で初めての芥川受賞作家(昭和14年)となった寒川光太郎の作品「密猟者」を取り上げます(資料をお届けいたします)。

また、メンバーの青柳文吉さんに「寒川光太郎の世界」と題して、光太郎と父・菅原繁蔵との関係を中心に、彼の人となりをお話ししていただくことになりました。

同人(メンバー)のみなさんだけでお話を聞くのはもったいないので、「文芸交流」のプログラムとしますので、一般の方にもお誘いいただければ幸いです。実りの秋、文化の秋も、もうそろそろですね。